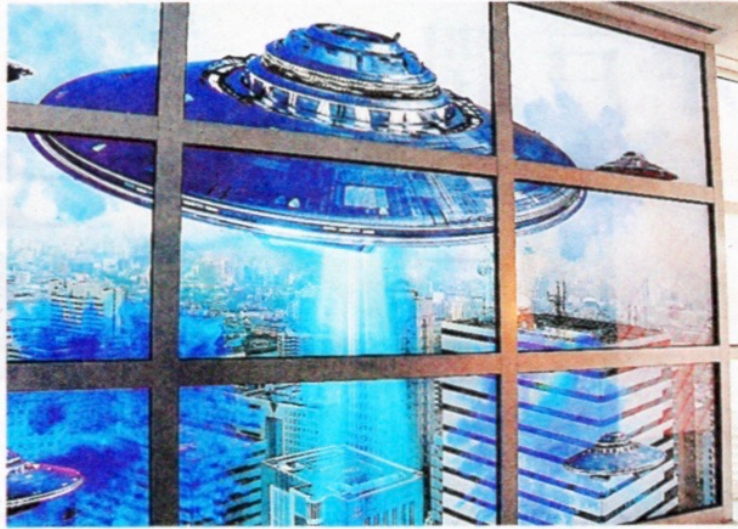


# 福岡タワー、若返り



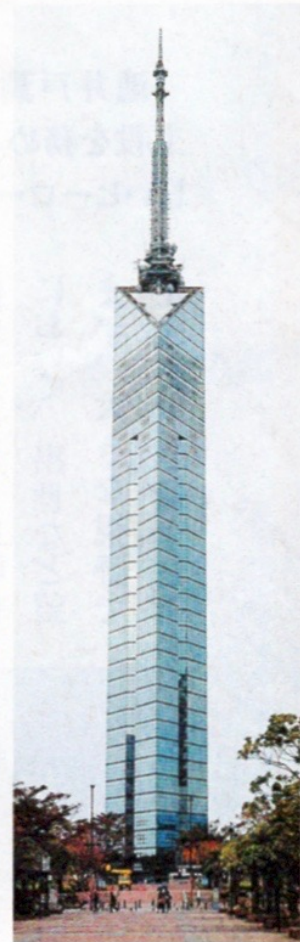
展望台から見える風景にUFOが登場する液晶画面＝いずれも福岡市早良区百道浜2丁目

福岡タワーは、「アジア太平洋博覧会（よかトピア）」のシンボルとして福岡市早良区に誕生した。高さ123階の展望フロアから、博多湾や街並みが一望できることが魅力だが、老朽化が進み、1月4日から改装していた。  
新たに採り入れたVR装置「SKY Walk 123歩」は、双眼鏡型の装置を顔に当てると、展望フロアと同じ高さ123階の上空から、能古島（西区）やアイラ

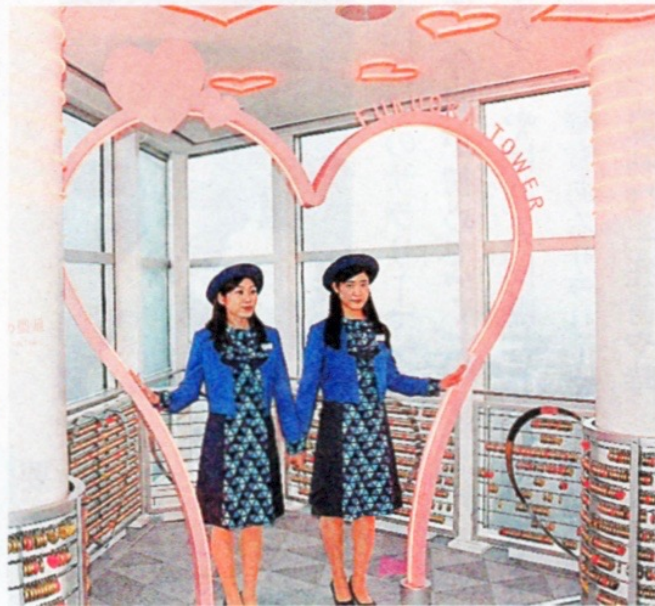
## お色直し終えきょう再開

福岡市の代表的観光スポット、福岡タワー（高さ234階）が、1989（平成元）年の開業以来、初めての全面改装を終え、1日、営業を再開する。VR（仮想現実）装置などを導入し、景色以外にも楽しめる設備を充実させた。

福岡の街になじみ、ランドマークとして親しまれる現在の福岡タワー



# ARのUFOや星空を再現



2人が手をつないでハート形のモニューメントにタッチすると点灯する「恋人の聖地」

このほか、空からカプセルが落ちてくることをイメージした「天空ガチャ」なども新設した。展望フロアの一角は、星が瞬く夜空を再現した。  
1日は午前9時半開館。6月の点検日を除き、年中無休。  
（柏樹利弘）

ンドシティ（東区）など、市内13地点を眺める体験ができる。

展望フロアの窓に備えられた液晶画面「ハプニングウインドウ」には、AR（拡張現実）を活用。普段は風景が映し出されているが、突然、UFOやロボットが現れる。